

新しき

本を買い来て

読む夜半の

そのたのしさも

長くわすれぬ

学年

小四

氏名

課題解説

短歌

三十一文字でつづる短歌（古くは和歌）は、日本の文学の大きな一領域。課題は石川啄木の処女歌集「一握の砂」から。書を読む楽しさも永く忘れていたな、という歌。自分の心を素朴に表現した啄木の短歌ファンは多い。同歌集の冒頭は「東海の小島の磯の白砂に我泣きぬれて蟹とたはむる」